

12 月定例月議会において 野村いくよ議員・奥野みか議員 それぞれ一般質問を行いました

枚方市は、待機児童の解消を図るため、待機児童の大半を占める 1,2 歳児の入所枠拡大のため、小規模保育事業の実進を進めてきました。2017 年度以降、小規模保育施設を順次認可し、現在公私立あわせて 16 施設となっています。しかし、小規模保育施設の在園児が増えることによって、小規模保育卒園児の行先については、希望する保育施設に入所できていない児童が多いのが現実です。3 歳児入所に関しても保護者の不安を払拭する丁寧な対応を求めました。

また、2019 年 4 月から小規模保育卒園児の受け皿として、公立幼稚園の枚方版子ども園が実施されています。お弁当・おやつを持参しなければならないので、保護者には大きな負担となります。働く保護者の子育て支援を行うということで、給食・おやつの提供を含む 1 日のカリキュラムの用意を要望しました。

この他には、今年の 4 月から実施される新学指導要領により小学校 5,6 年生で始まる教科としての英語の指導体制について、また、枚方市の地球温暖化対策について等、質問しました。



昨年、家族の看取りを行う中で、人生の最期の迎え方について、「病院で死にたくない」という本人の意思をどのように支えていくか等、いろいろと考えるところがあったこと

から、人生の最終段階の過ごし方を選択できる環境の整備についての質問をし、ACP（人生会議）や適切な救急要請について、市民や介護事業者への啓発や、救急搬送や救急医療における看取りの問題を整理し在宅医療体制の整備をはじめ地域医療の推進する専門の部署を設けるなどの支援体制が構築されることを要望しました。

また、外国籍の子の不就学の問題がクローズアップされたこともあり、子どもの最善の利益や「誰一人取り残さない」多文化共生の観点から、外国につながる子どもの教育を保障することのほか、災害時の支援、「やさしい日本語」の普及・啓発、社会教育事業としての基礎的・体系的な日本語教育の実施等、外国人市民の支援について要望しました。

この他、行財政改革について、枚方市駅周辺再整備についての質問を行いました。



多様性を誇りに 分かち合うことを力に 支え合うことを安心に ～まっとうな政治を～

子どもの笑顔があふれるまち、枚方



<https://nomura-ikuyo.com>

枚方市議会議員

立憲民主党枚方市支部 幹事長 野村いくよ

すべての人々が、「今」を輝いて生きていくことができる社会の実現を



<https://okuno-mika.com>

枚方市議会議員

立憲民主党枚方市支部 市政対策委員長 奥野みか

衆院本会議で 22 日、安倍総理の施政方針演説に対する代表質問が行われ、立憲民主・国民・社保・無所属フォーラムを代表して枝野幸男代表が登壇。

- (1) 「桜を見る会」をめぐる問題
- (2) 「桜を見る会」に関連する公文書管理
- (3) 閣僚等についての問題
- (4) 政権ビジョン
- (5) 経済財政
- (6) 社会保障・教育子育て
- (7) エネルギー政策の転換
- (8) 外交・安全保障——について取り上げ、安倍総理の見解をたしました。



枝野代表は、日本社会の現状について、超高齢化と人口減少が進むなか、消費増税が引き上げられた一方で老後の不安は高まるばかりであり、第 2 次安倍政権発足から 7 年が経過しても、いわゆるトリクルダウンは起こらず、多くの国民の皆さんは豊かさを実感できず、格差が固定化し、明日への希望を見いだせない国民が増えていると指摘。「日本経済の過半を占める個人消費は回復の兆しすら見せず、アベノミクスの限界は明確。総理の施政方針演説は、見たくない現実を目を背けた無責任なものと断じざるを得ない」と指弾しました。

その上で、「しかし私は悲観していません」と続け、私たちの国にある潜在的な力を引き出す新しい道を切り拓くため、安倍政権に代わるもう一つの政権の選択肢を示すと宣言。政権ビジョンとして「『支え合う安心』をつくる」「『豊かさの分かち合い』によって経済を活性化する」「『責任ある充実した政府』を取り戻す」——の 3 つの柱を挙げ、「社会全体で『支え合う安心』の仕組みを構築することで、老後の不安をなくし、子どもを産み育てたいと望む方々の希望をかなえることが可能な社

会をつくる」「偏って存在している豊かさを分かち合うことで、多くの国民がその実感を持てるようにする。それが、可処分所得を実質的に拡大させ、国内消費を伸ばし、GDP の持続的成長につながる最大の経済対策となる。『分配なくして成長なし』。社会状況の変化を踏まえて経済政策を転換し、『豊かさの分かち合い』を進めることで、一人ひとりが豊かさを実感できる社会と、内需が着実に成長する経済を実現する」「『支え合う安心』も、適正公平に『豊かさを分かち合う』ことも、民間だけでは、市場原理では実現できない。昭和の終わり頃から、多くの先進国で『競争を加速することが正義、政府は小さいほど良い』という方向に大きく傾いたが、現状は、『民間でできないことまで民間へ』。背負うべき役割まで放棄した『小さすぎて無責任な政府』になっている。『小さな政府』幻想から脱却し、必要なことには『責任ある充実した政府』を、そして『民間でできないことはしっかりと官が責任を持つ』『まっとうな政治』を取り戻す。もちろん、立憲主義を回復させ、適正な公文書管理と情報公開を進めることは大前提」だと述べました。

枝野代表は、「最大野党の党首の責任として、『支え合う安心』と『豊かさの分かち合い』を実現する『責任ある充実した政府』をもう一つの選択肢として高く掲げる」と表明。立憲民主党はもとより、会派を共にする皆さん、連携協力する他の野党の皆さん、今の社会と政治に不安と不信を抱く多くの有権者の皆さんと、違いを認め合いながら幅広く力を合わせ、政権交代を実現する決意だと述べ、その大きな転換点の向こうに、明るい日本を切り拓くことができると確信すると力を込めました。

➤ 代表質問後の枝野代表のコメント「相変わらず支離滅裂、論理的整合性の取れない、無茶苦茶な答弁。審議を通じて矛盾を明らかにしていく。」

